

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	教養 I			平野五月	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	週 1 コマ＝2時限×15週 週 2 コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

マイクロソフトオフィシャルトレーナーとして、企業研修や企業セミナー、インストラクター養成講座を10年行っていた経験を踏まえ、
ビジネス知識の指導にあたる。

☐ 授業科目の概要

ビジネスマンとして実務マナーの習得「必要とされる資質」「企業実務」「対人関係」「技能」を学ぶ
ビジネス実務マナー検定3級・2級合格対策

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	自己紹介・問題に挑戦	自己紹介、他己紹介、検定概要、マナーについて、時間管理、問題2問に挑戦・解説、宿題Text P12～62必読
2	必要とされる資質	自己紹介(4人チームで行う)、マナーについて、ラーニングピラミッド、問題5問に挑戦・解説、小テスト
3	必要とされる資質・企業実務	自己紹介(4人チームで行う)、小テスト(問題5問・Text事例研究・他30問)→解説「予習 P135～145 敬語テスト範囲」
4	対人関係	メラビアンの法則、挨拶・訪問・来客対応・席次・電話・敬語、敬語テスト→解説、「復習 P90～132」
5	対人関係・技能	交際・情報・文書・会議、小テスト(3・4回で行った問題)→解説、「復習 P155～233」
6	記述問題	記述問題(Textから出題)→解説
7	検定直前対策	演習→解説×2回
8	体感演習	必要とされる資質 (1) (行動・判断・表現力、時間・自己・健康管理)、問題30問→解説
9	体感演習	必要とされる資質 (2) (チームで体感)、問題30問→解説
10	体感演習	企業実務 (1) (仕事の受け方、与え方)、問題30問→解説
11	体感演習	企業実務 (2) (仕事の受け方、与え方)、問題30問→解説
12	体感演習	対人関係・技能(クイズ形式)、問題30問→解説
13	体感演習	就活をイメージした身だしなみ・服装について(チェック)、クイズ形式にてチーム戦
14	考査直前対策	身だしなみ・服装、再チェック、演習問題
15	前期考査	
16		

☐ 到達目標

ビジネス実務マナー検定 3級合格

☐ 成績評価の方法・基準

試験80% 課題10% 出席状況・授業態度10%

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ビジネスコミュニケーションⅠ（キャリア基礎）			馬場裕		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

物流系の民間企業で海外担当として従事。内5年間は海外赴任 その後大学教員に転身。

☐ 授業科目の概要

・自分自身を理解し、将来像を考えることで、今、そしてこれから取り組むべきことを明確にする。
その内容に沿った方たちで講義を進めて、対外コミュニケーションスキルを上げ、後期の業界EXPO、本格的な就職活動につなげる。・「過去の自分」をもとにした「自己PR」を完成させる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエン、自己紹介	半期の流れの説明及び、学生の自己紹介を行う。
2	学校を知る・学科を知る	学校の特長や学科の各授業が、どういう資格につながり、卒業後、どうなっていくための授業なのか、2年間、もしくは3年間の学びについて紹介する。
3	コミュニケーションゲーム （他人から見た自分）	クラスメイトから見た自分と、自身が思っている自分のイメージの違いを認識し、これから行う自己PR（長所）の作成に役立てる。「You are シート」を作成し、他己紹介を行い、スピーチトレーニングの要素を含める。
4	自己理解	「自分史シート」「I am シート」を作成し、自身の強みを知り、なぜそれが身に付いたかを掘り下げて考える。
5	キャリアプランニング	「将来デザインシート」「目標設定シート」を作成し、自身のざっくりとした将来像を考え、そのために必要なもの、今からできることを考える。そこで出てくるものが想定されるものが、第5回以降の授業で学ぶ内容とリンクしていく。
6	対外コミュニケーション①	対外コミュニケーションで必要となることを、例を挙げて解説。ロールプレイングを含めても良い。（例：「会社説明会に参加する」⇒入口でコートは脱ぐ、説明会の聞き方、メモは、質問は、終了後は、など）
7	対外コミュニケーション②	対外コミュニケーションで必要となる、採用担当者への文章の書き方やメール作成の仕方を考える。
8	<自己分析①> 自己PRにつなげる	前回までに取り組んだことを活かして、「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」を考える。
9	<自己分析②> 自己PRを作成する	前回までに取り組んだことを活かして、「自己PR」を完成させる。
10	<自己分析③> 人の自己PRを聞いてみるⅠ	前回までに作成した「自己PR」「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」等を、数名のグループを作って一人ずつ発表する。人からの意見を聞くことで新たな気づきがあったり、参考にできる部分は参考にする。また、発言を聞いている人は、発言者に必ず質問する。（そのため話をしっかり聞き、メモを取る。）
11	<自己分析④> 人の自己PRを聞いてみるⅡ	前回までに作成した「自己PR」「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」等を、数名のグループを作って一人ずつ発表する。人からの意見を聞くことで新たな気づきがあったり、参考にできる部分は参考にする。また、発言を聞いている人は、発言者に必ず質問する。（そのため話をしっかり聞き、メモを取る。）
12	質問力を高める	他学科・他部署の先生が時間を区切り、あるテーマで話をする。学生はチームで質問を考え、代表者が挙手の上、質問をしていく。学生は、質問をするためしっかり話を聞き、メモを取って臨む。（人と話を交えて、複数講師も可。）
13	業界研究「職業・職種を知る」	自身が目指す（興味のある）業界・職種（人によっては具体的な企業）について調査し、各自でまとめて発表する。
14	身だしなみ講座&就職情報サイト登録	これから本格的に就職活動を行う上で必要となる「身だしなみ」について学ぶ。（挨拶や表情についても触れる）さらにマイナビ、リクナビ等の就職情報サイトの登録を行い、後期に向けて活動がスムーズに進められるようにする。
15	前期試験	昨年度の業界EXPO参加票をそのまま使って、自己PR欄を完成させる。いよいよ後期には業界EXPOがある＝（就職活動が本格的に始まる）ことの動機付けにする。

☐ 到達目標

- ・「過去の自分」をもとにした「自己PR」は完成させる。
- ・就職活動の準備段階で必要となる対外コミュニケーションスキルを身に付け、スムーズに業界EXPOに参加できるようにする。

☐ 成績評価の方法・基準

- ・業界EXPO参加票の最後の行まで記入できていれば100点。
- そこから、出欠状況、授業に取り組む姿勢等を考慮し、学科判断で減点する。

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	企業研究 I		齊藤尚仁		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	週1コマ=2時限×15週 週2コマ=4時限×15週	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

民間企業の経営企画部門での勤務後、経営コンサルタントとしての法務アドバイス等の行っている教員が職務経験を授業の中に入れることで、ビジネスの現場で活用する実践的なノウハウを享受する。

☐ 授業科目の概要

内容は、（１）環境変化に順応し成長が期待される、生き残る業界の見方、（２）実際に企業の現場で働いている、働いていた方を招き、業界の置かれた環境状況、その業界で働くにあたり身に着けると役に立つ知識等を講演。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	業界動向（業界概況）	業界情報収集、アンテナを張ることの重要性
3	業界動向（環境変化）	2000年代から現代までの業界動向
4	業界動向（将来予測）	将来成長が予測される業界
5	職業人講話（素材業界）	イメージーション・ヴィレッジ契約講師：山本
6	職業人講話（化粧品業界）	イメージーション・ヴィレッジ契約講師：大楽
7	職業人講話（コンビニ業界）	イメージーション・ヴィレッジ契約講師：池田
8	職業人講話（IT業界）	イメージーション・ヴィレッジ契約講師：坪内（IT企業経営者）
9	職業人講話（食品業界）	イメージーション・ヴィレッジ契約講師：齊藤
10	職業人講話（航空業界）	イメージーション・ヴィレッジ契約講師：鷹野
11	業界動向（最新動向）	2021年度の最新動向を日経新聞等より抽出し解説（１）
12	業界動向（最新動向）	2021年度の最新動向を日経新聞等より抽出し解説（２）
13	総合演習	グループワーク / 発表
14	総まとめ	
15	レポート作成	
16		

☐ 到達目標

業界の将来動向についての自分の考え方を、相手に伝えることができるレベル

☐ 成績評価の方法・基準

レポート内容と出席率、講義態度を総合的に判断し評価する。

ホームページからのコピー＆ペーストが発覚した場合は0点とする。また、授業態度不良（居眠り、携帯いじり等）で、講師が改善を求めても従わない場合は、大幅な減点とする。

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	簿記会計Ⅰ			高田清志	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			6	6×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

簿記会計の基礎知識から応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

初学者向き簿記3級取得のための論点学習と演習

11月までに簿記3級の取得に向けた知識の習得と得点力強化のための演習

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介、簿記の概要、授業の進め方等
2	簿記各論①	商品売買
3	簿記各論②	債権債務
4	簿記各論③	固定資産、その他論点、試算表
5	簿記各論④	決算手続き（現金過不足、貯蔵品、売上原価）
6	簿記各論⑤	決算手続き（貸倒引当金、減価償却）
7	簿記各論⑥	決算手続き（経過勘定ほか）
8	簿記各論⑦	精算表、決算整理後残高試算表
9	簿記各論⑧	財務諸表、帳簿、伝票、株式（1）
10	簿記各論⑨	財務諸表、帳簿、伝票、株式（2）
11	総合演習①	テスト形式演習（実施、解説、弱点補強）
12	総合演習②	テスト形式演習（実施、解説、弱点補強）
13	総合演習③	テスト形式演習（実施、解説、弱点補強）
14	総合演習④	テスト形式演習（実施、解説、弱点補強）
15	テスト	授業ごとに60分テスト
16		

☐ 到達目標

簿記3級取得

☐ 成績評価の方法・基準

欠席0…30以上、欠席1…40以上

欠席2…50以上、欠席3…60以上 合格

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	簿記演習 I			柴野宏行	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	週1コマ=2時限×15週 週2コマ=4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

税理士として顧問先の税務や経営指導を行っている教員が、

簿記会計の基礎知識、株式会社の会計を中心とした応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

初学者向き簿記3級取得のための論点学習と演習

11月までに簿記3級の取得に向けた知識の習得と得点力強化のための演習

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	演習1	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書
2	演習2	取引、仕訳、転記、資産表
3	演習3	商品売買
4	演習4	商品売買その他
5	演習5	株式会社・決算
6	演習6	決算・精算表
7	演習7	模擬試験問題（1）
8	演習8	模擬試験問題（2）
9	演習9	模擬試験問題（3）
10	演習10	模擬試験問題（4）
11	演習11	模擬試験問題（5）
12	演習12	模擬試験問題（6）
13	演習13	模擬試験問題（7）
14	演習14	模擬試験問題（8）
15	前期考査	
16		

☐ 到達目標

日商簿記検定3級合格レベル

☐ 成績評価の方法・基準

定期試験60% 平常点40%

なお、平常点については、授業遅刻回数・提出物の適否・授業態度等を勘案して適宜減点する。

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		生活の中のFP I		高橋ゆり		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

投信信託店舗、大手国内保険会社に勤務後、確定拠出年金、投資信託のセミナー講師として活動

CFP取得者として、ファイナンシャルプランナーの観点から授業を行う。

☐ 授業科目の概要

FPで学んだことや知識を生活に活かせるようにする

生活や業務にどう活かされているのかを中心に学んでいく

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ガイダンス	F Pとは？ 資格とは？
2	金融リテラシー	金融庁高校生向け動画視聴
3	経済とは何か	お金とは何？ 経済って身近？
4	社会保険（公的年金以外）	社会保険の詳細を見てみよう 小テスト
5	社会保険（公的年金）	公的年金の詳細を見てみよう 小テスト
6	生命保険	生命保険の詳細を見てみよう 小テスト
7	損害保険	損害保険の詳細を見てみよう 小テスト
8	キャッシュレス	キャッシュレスを調べてみよう レポート
9	金融商品	預金の金利を調べてみよう レポート
10	金融商品	投資信託とは何か 小テスト
11	金融商品	NISA iDeCo 企業型確定拠出年金
12	まとめ	今まで学んだ制度や商品 社会人になったら何を使うか考えてみよう
13	AFP提案書説明	AFPとは？ 提案書作成に必要な教材等の案内
14	AFP提案書説明	AFP作成 動画視聴
15	AFP提案書説明	AFP作成 動画視聴
16		

☐ 到達目標

FPの知識が生活に活かされることを知る

☐ 成績評価の方法・基準

学習への意欲50% 出席状況・授業態度50%

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	宅建Ⅰ			高田清志	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			4	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

簿記会計の基礎知識から応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

宅建合格のための論点の習得と演習

知識の習得と問題の演習

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、宅建試験の概要説明
2	宅建業法①	宅地建物取引業、免許、取引士
3	宅建業法②	営業保証金、保証協会
4	宅建業法③	業務の規制（全般、34条書面）
5	宅建業法④	35条書面、37条書面
6	宅建業法⑤	自ら売り主規制、履行確保法
7	宅建業法⑥	罰則、問題演習
8	法令上の制限①	都市計画法
9	法令上の制限②	建築基準法
10	法令上の制限③	農地法、国土利用計画法
11	法令上の制限④	土地区画整理法、宅造法
12	税その他①	税金 機構
13	税その他②	建物 地価公示法
14	税その他③	土地 景表法
15	テスト	テスト（本試験形式50問×授業数）
16		

☐ 到達目標

宅建士合格

☐ 成績評価の方法・基準

欠席0…30以上、欠席1…40以上

欠席2…50以上、欠席3…60以上 合格

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	宅建ⅠⅢ（合同）			高田清志	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			4	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

簿記会計の基礎知識から応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

宅建合格のための論点の習得と演習

知識の習得と問題の演習

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	権利①	総則 1（一般原則、制限行為能力者、意思表示）
2	権利②	総則 2（代理、時効、その他）
3	権利③	債権（損害賠償、売買、契約全般）
4	権利④	物件（所有権、共有、抵当権など）
5	宅建業法演習①	宅建業法過去問演習
6	権利⑤	相続、家族
7	権利⑥	借地借家法
8	権利⑦	区分所有法、不動産登記法、
9	宅建業法演習②	宅建業法過去問演習
10	税その他①	住宅金融支援機構、地価公示法、土地鑑定評価基準
11	税その他②	土地、建物、不当景品表示法など
12	税その他③	統計データ、税その他問題演習①
13	税その他④	統計データ、税その他問題演習②
14	宅建業法演習③	宅建業法過去問演習
15	テスト	本試験形式
16		

☐ 到達目標

宅建士合格

☐ 成績評価の方法・基準

欠席 0 … 3 0 以上、欠席 1 … 4 0 以上

欠席 2 … 5 0 以上、欠席 3 … 6 0 以上 合格

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	FPベーシック I		岩本雄一		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		6	6×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

元広告マンなので、FPに関連する実務経験は特にありませんが、相談案件の実行支援などで、各専門家連携を取ってきました。

あえていうならば、住宅展示場を手掛ける際に、土地における各種申請をすることはありました。

☐ 授業科目の概要

FP3級技能士の資格試験対策

基本の6科目を講義と演習で理解を深める。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	ライフプランニング	ガイダンス/テキスト：FP基礎～健康保険 ※オンライン授業も同様
2	ライフプランニング	テキスト：後期高齢者医療制度～企業年金 ※オンライン授業も同様
3	ライフプランニング	テキスト：所得税の基礎～所得控除 ※オンライン授業も同様
4	タックスプランニング	テキスト：所得税額の算出～所得税の申告・納付、保険の基礎～生命保険料 ※オンライン授業も同様
5	タックスプランニング	テキスト：生命保険の契約～損害保険の種類 ※オンライン授業も同様
6	リスク管理	テキスト：第三分野の保険～保険の見直し、経済・金融の基礎～債券 ※オンライン授業も同様
7	リスク管理	テキスト：株式～ポートフォリオ ※オンライン授業も同様
8	金融資産運用	テキスト：不動産登記～不動産の法令 ※オンライン授業も同様
9	金融資産運用	テキスト：不動産取得～有効活用、贈与税の基礎 ※オンライン授業も同様
10	不動産	テキスト：贈与税の特例～相続税のしくみ ※オンライン授業も同様
11	不動産	テキスト：相続税の計算～財産評価、過去問演習（実技） ※オンライン授業も同様
12	相続・事業承継	テキスト：過去問演習（実技） ※オンライン授業も同様
13	相続・事業承継	講義：お金の話/レポート ※オンライン授業も同様
14	過去問演習	講義：お金の話/レポート ※オンライン授業も同様
15	前期考査	前期考査：9:20～学科試験/11:00～実技試験

☐ 到達目標

FP3級技能士合格

☐ 成績評価の方法・基準

試験60% 授業態度：30% 出席状況10%

試験の点数、授業に対するやる気を最重視します。

2026年度	前期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	起業論 I		齊藤尚仁		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

民間企業の経営企画部門での勤務後、経営コンサルタントとしての法務アドバイス等のを行っている教員が職務経験を授業の中に入れることで、ビジネスの現場で活用する実践的なノウハウを享受する。

☐ 授業科目の概要

事業コンセプトづくりをゴールとし、SWOT分析、競争戦略等の戦略論を講義する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講師紹介、講義の進め方
2	起業家の意識	起業目的、目標設定、課題の把握
3	ビジネスアイデア	ビジネスニーズの把握：「不」から考える
4	SWOT分析	ビジネスチャンス発見（外部環境）
5	SWOT分析	自分のセールスポイント発見（内部環境）
6	経営戦略（ドメイン）	ターゲティング（標的顧客）
7	経営戦略（ドメイン）	STP（ターゲティング、ポジショニング）
8	経営戦略	ブランド戦略（高付加価値化）
9	経営戦略	選択と集中（マーチャンダイジング）
10	競争戦略	ファイブフォース（競合分析）（1）
11	競争戦略	ファイブフォース（競合分析）（2）
12	競争戦略	3つの戦略（事例）（1）
13	競争戦略	3つの戦略（事例）（2）
14	総合演習	グループワーク / 発表
15	レポート	
16		

☐ 到達目標

SWOTから実現性の高いビジネスアイデアを抽出できる。

☐ 成績評価の方法・基準

①講義を通じて習得した知識をもとに、自分の考えを加味したレポートを最終講義時間に作成（4段階で相対評価）。

②夏休み期間中に、講師より課題を与えレポートを提出。レポート内容により、4段階で相対評価。

③①、②に加え、出席状況、講義内での態度等を総合的に加味し、評価を行う

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	教養Ⅱ			平野五月	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

マイクロソフトオフィシャルトレーナーとして、企業研修や企業セミナー、インストラクター養成講座を10年行っていた経験を踏まえ、ビジネスの知識の指導にあたる

☐ 授業科目の概要

ビジネスパーソンとして文書知識を習得し、ビジネス文書検定3級の合格をめざす。また、就職活動に必要となる、メールの書き方等の実践に資するスキルを高める。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講師自己紹介、ビジネス文書の必要性、意義、検定概要説明
2	模擬テスト	ビジネス文書検定3級の過去問を使い、全体像を理解する
3	ビジネス文書検定「表記技能」	講義、過去問テスト、ポイント解説
4	ビジネス文書検定「表現技能」	講義、過去問テスト、ポイント解説
5	ビジネス文書検定「実務技能」①	講義、過去問テスト、ポイント解説
6	ビジネス文書検定「実務技能」②	講義、過去問テスト、ポイント解説
7	検定直前対策	過去問を中心とした振り返りテスト、解説
8	就職活動の文書	メールの署名、就職活動におけるメール文例
9	就職活動の文書	就職活動におけるメール文例
10	就職活動の文書	小テスト
11	就職サイト登録	大手就職サイトに登録、表記、内容等確認
12	自己PR、志望動機の書き方	書き方講義、事例を踏まえ、自分の文章を検討
13	自己PR、志望動機の書き方	自分の文章完成
14	総括	授業振り返り
15	定期考査	
16		

☐ 到達目標

ビジネス文書検定 3級合格
就職活動に必要な文書スキル習得

☐ 成績評価の方法・基準

試験60% 課題20% 出席状況・授業態度20%

2026年度	後期	経営学科	1 年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	ビジネスコミュニケーションⅡ		川島里美		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	週1コマ=2時限×15週 週2コマ=4時限×15週	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

人事の経験を活かし、企業が評価するポイントを伝えるとともに、面接対応、履歴書の作成などを成功事例や改善点を交えて指導します。

また、研修講師として問題解決型ワークショップを実施し、学生がキャリア課題を発見・解決し、自己理解と戦略的な就職活動を支援します。

☐ 授業科目の概要

1 年前期「ビジネスコミュニケーションⅠ」の流れを引き継ぎ、業界EXPOの準備を通して就職活動に必要な知識を身に付けていきます。

業界EXPO後はリフレクションを通して個人の課題を見つけ、最終的には就職活動を一人でも行える能力を身に付けます。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	意識づけ（就職活動、業界EXPO）	就職活動（社会保険、キャリア形成、準備）、業界EXPO（5つの人間力など）、就職活動スケジュール確認など
2	就職活動のスーツやメイクと就職活動の軸	就職活動を行うためのスーツやメイクについてレクチャー、後半は学生個人の就職活動の軸について考える
3	書類作成①	「就職の軸」/志望動機と自己PR以外の履歴書の書き方をレクチャー(履歴書見本配布)/ HW:EXPO参加企業について調べる(企業研究シート配布)
4	書類作成②	志望動機と自己PRの作成手順の説明し、実際に作成してみる
5	書類作成③	前回作成した自己PR（履歴書自己PR欄＝業界EXPO参加票）を添削し、参加票に清書書きを行う
6	業界EXPO準備①	企業研究：企業研究の仕方をレクチャーし、数名のグループを作り企業を調べて最後の発表を行う
7	業界EXPO準備②	スーツ登校させ事前チェックを行う、業界EXPOでの質問時のマナーを説明し質問を考える、業界EXPO当日の注意事項などを学生パンフを使い確認していく※参加票が完成していない学生は完成させる
8	業界EXPO振り返り	業界EXPOの振り返り（リフレクション）を行い、後半は就職活動マナー（メール、電話、封筒、送り状、お礼状、企業説明会参加のマナーなど）を学ぶ / HW:サイト登録(マイナビ・リクナビ・他)
9	就職活動対策①	エントリーシートの書き方と活動の流れをしっかりと理解する ※理解度テスト（サイト登録確認）
10	就職活動対策②	面接対策①（基本5項目の書き方の説明と作成）
11	就職活動対策③	面接対策②（実践：面接官と受験者を実際に体験してみる）
12	就職活動対策④	グループディスカッション（GD）対策、求人票の見方、今後の就職活動スケジュールの確認など
13	スタログ説明	今年度から導入した就職活動アプリ「スタログ」の使用説明を行う※業者作成の動画
14	期末考査の準備	就職試験でよく聞かれる5項目について考え完成させる
15	期末考査	就職試験基本5項目をそれぞれ指定の字数で書く
16		

☐ 到達目標

就職活動への意識を高め、活動のノウハウを身に付ける。

☐ 成績評価の方法・基準

試験30% 課題10% 出席状況・授業態度60%

日頃の授業態度と「小テスト・考査」の結果を総合的に評価する。

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	投資の基礎Ⅰ			水野崇	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本選択	講義・演習			2	2×15	週1コマ=2時限×15週 週2コマ=4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師は水野総合FP事務所代表を務め、相談、執筆・監修、講演・講師、取材協力、メディア出演など幅広い業務に携わる。

CFP、1級FP技能士、宅建士、証券外務員1種等の資格を有し、金融資産設計の専門家・実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

日本証券業協会が提供している金融経済授業教材・株式投資ゲームを中心に、資産運用の基本について学習する。

1人1台ずつパソコンを活用し、実際の株価に基づいて株式投資の銘柄選び～株式の模擬売買を行う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	資産形成を体験しよう	金融商品を選んで資産運用を行う体験プログラム、金融商品のリスクとリターンや資産形成について学ぶ
2	金融・経済、金融クイズ	経済や金融に関するさまざまなテーマをゲームの世界で体験的に学ぶ
3	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
4	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
5	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
6	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
7	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
8	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
9	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
10	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
11	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
12	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
13	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
14	株式学習ゲーム	実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行う
15	後期考査	これまでの授業を振り返り、一人一人の株式投資実践結果を発表
16		

☐ 到達目標

ゲームや体験プログラムを通じて、株式会社制度や株式の経済的意義、証券市場のしくみについて理解する

☐ 成績評価の方法・基準

出席状況・授業態度100%

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	商業簿記Ⅰ			高田清志	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			4	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

簿記会計の基礎知識から応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

前半は日商簿記検定2級商業簿記レベルのイントロ授業

後半は本試験レベル問題の演習授業

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	個別論点学習	商品売買 現金預金
2	個別論点学習	債権債務 有価証券
3	個別論点学習	有形固定資産
4	個別論点学習	リース取引 無形固定資産 研究開発費 引当金 外貨換算会計
5	個別論点学習	税金、課税所得 税効果会計
6	個別論点学習	株式の発行 剰余金の配当と処分 決算手続
7	個別論点学習	収益費用の認識基準 本支店会計 合併と事業譲渡
8	個別論点学習	連結会計①
9	個別論点学習	連結会計②
10	個別論点学習	連結会計③
11	個別論点学習	連結会計④
12	総合演習	テスト形式演習①
13	総合演習	テスト形式演習②
14	総合演習	テスト形式演習③
15	テスト	本試験レベルテスト or 要点まとめレポート
16		

☐ 到達目標

簿記2級合格

☐ 成績評価の方法・基準

3級取得（10点）授業点（30点）テスト（100点）

簿記2級取得

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	企業研究Ⅱ			齊藤尚仁	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

民間企業の経営企画部門での勤務後、経営コンサルタントとしての法務アドバイス等の行っている教員が職務経験を授業の中に入れることで、ビジネスの現場で活用する実践的なノウハウを享受する。

☐ 授業科目の概要

授業では、環境変化に順応し成長が期待される職種の見方を学ぶ。また、業界で働く方の知見をベースに、現場環境や役立つ知識を講義する。実務に必要な専門的能力を身に付けることを目的とし、企業経営分野に関する知識の習得を目指す。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	企業研究Ⅰの復習	企業研究Ⅰ（業種・業界）の復習を行い、業種や業界と職種の関係を講義し、職種に関する導入学習を行う
2	ビジネスモデルと職種	企業と企業のビジネスモデルを説明し、ビジネスモデルの視点から業種・業界と職種のつながりについて説明する
3	職種概説	情報発信系、ものづくり系、管理系の職種を概要とその違いを説明する
4	営業販売職	営業販売職の種類と違いを中心に、歩合制からチーム営業まで様々なスタイルを説明する
5	コンサルティング職	営業販売職を含めたソリューション提供型のコンサルティング職を説明する
6	職業人講話（総務）	素材メーカーをケースに、総務の職種を説明する
7	職業人講話（スーパーバイザー）	コンビニエンスストアをケースに、スーパーバイザーの職種を説明する
8	職業人講話（営業）	ソフトウェア会社をケースに、チーム営業等の職種を説明する
9	職業人講話（商品開発）	食品メーカーをケースに、商品開発や調査に関する職種を説明する
10	職業人講話（IT）	IT会社をケースに、SE等の職種を説明する
11	製造に関わる仕事	ものづくりについて、生産方式から職種を説明する
12	職業人講話（ブランディング）	化粧品事業をケースに、ブランディングや商品企画の職種を説明する
13	職業人講話（商品企画）	コンビニエンスストアをケースに、商品開発の職種を説明する
14	まとめ（演習）	過去の授業を振り返り、補足説明をする 後期考查模擬演習を行う
15	後期考查	
16		

☐ 到達目標

仕事に必要な実践的かつ専門的な能力を習得できている

☐ 成績評価の方法・基準

試験80% 出席状況・授業態度20%

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		工業簿記Ⅰ		高田清志		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		4	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

簿記会計の基礎知識から応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

前半は日商簿記検定2級工業簿記レベルのイントロ授業

後半は本試験レベル問題の演習授業

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	個別論点学習	材料費 労務費 経費
2	個別論点学習	個別原価計算①
3	個別論点学習	個別原価計算②
4	個別論点学習	個別原価計算③
5	個別論点学習	総合原価計算①
6	個別論点学習	総合原価計算②
7	個別論点学習	総合原価計算③ 財務諸表
8	個別論点学習	標準原価計算
9	個別論点学習	直接原価計算
10	個別論点学習	本社工場会計①
11	個別論点学習	本社工場会計②
12	総合演習	テスト形式演習 2セット
13	総合演習	テスト形式演習 2セット
14	総合演習	テスト形式演習 2セット
15	テスト	本試験レベルテスト or 要点まとめレポート
16		

☐ 到達目標

簿記2級合格

☐ 成績評価の方法・基準

3級取得（10点）授業点（30点）テスト（100点）

簿記2級取得

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		宅建Ⅱ		高田清志		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		6	6×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

宅建士の資格取得から、実務での活用例について享受する。

☐ 授業科目の概要

来年度の宅建士合格向け 宅建業法の再イントロと仕上げ

宅建試験の業法のまとめ 授業でも問題を解き、解説を作成し、提出する

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	過去問演習	令和元年 過去問演習と解説
2	過去問演習	令和2年 過去問演習と解説
3	過去問演習	令和3年 過去問演習と解説
4	宅建業法問題演習と解説	宅建業とは 免許 取引士
5	宅建業法問題演習と解説	免許の基準 登録の基準
6	宅建業法問題演習と解説	営業保証金 保証協会
7	宅建業法問題演習と解説	業務上の規制 一般規制
8	宅建業法問題演習と解説	業務上の規制 自ら売り主規制①
9	宅建業法問題演習と解説	業務上の規制 自ら売り主規制②
10	宅建業法問題演習と解説	報酬その他
11	宅建業法問題演習と解説	監督、罰則
12	宅建業法問題演習と解説	履行確保法
13	宅建業法問題演習と解説	宅建業法総括①
14	宅建業法問題演習と解説	宅建業法総括②
15	テスト	小論文
16		

☐ 到達目標

本試験満点レベルの業法の力をつける

☐ 成績評価の方法・基準

課題提出（7割） 出席（2割） 小論文（1割）

宅建本試験合格

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	AFP/不動産Ⅰ		岩本雄一		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

元広告マンなので、FPに関連する実務経験は特にありませんが、相談案件の実行支援などで、各専門家連携を取ってきました。

あえていうならば、住宅展示場を手掛ける際に、土地における各種申請をすることはありました。

☐ 授業科目の概要

FP2級技能士の取得を目指すため、テキストで知識のインプットを行い、その日のうちに演習により記憶の定着と出題パターンに慣れる。

出来るだけ多くの問題に触れてもらい、知識の取りこぼしを減らし自信を養う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ライフプランニング	確認テスト&答合せ（関連法規、ライフプラン、住宅&教育プランニング）
2	ライフプランニング	確認テスト&答合せ（障害給付、遺族給付、併給調整、企業年金）
3	タックスプランニング	確認テスト&答合せ（所得控除、所得税の算出・申告納税）
4	リスク管理	確認テスト&答合せ（保険法、生保保険料・契約）
5	リスク管理	確認テスト&答合せ（損保の基礎・種類、第三分野保険、保険の見直し）
6	金融資産運用	確認テスト&答合せ（貯蓄型商品、債券、株式）
7	金融資産運用	確認テスト&答合せ（外貨建て商品、投資手法と考え方）
8	不動産	確認テスト&答合せ（不動産の法令）
9	相続・事業承継	確認テスト&答合せ（贈与税の基本、贈与性の特例）
10	相続・事業承継	確認テスト&答合せ（相続税の計算、財産評価、相続対策）
11	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
12	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
13	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
14	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
15	考査	学校の教室で試験を行う
16		

☐ 到達目標

FP2級技能士の取得

別授業で行われている提案書の授業と連携してAFPの取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験70% 課題25% 出席状況・授業態度5%

毎回行う演習と後期考査の点数を考慮する。

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	F P 設計書			高橋ゆり	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本選択	講義・演習			4	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

投信信託店舗、大手国内保険会社に勤務後、確定拠出年金、投資信託のセミナー講師として活動

CFP取得者として、ファイナンシャルプランナーの観点から授業を行う。

☐ 授業科目の概要

AFP認定研修のため提出必須の提案書を作成し、合格を目指す

ファイナンシャルプランニングは夢や希望を叶えるために行うものであるから、学習してきた知識を活かし、希望をかなえるための提案書を作成する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ガイダンス	F P 資格とは何か、A F P 認定を受けよう、F P の活かし方、提案書作成・提出について
2	提案書作成の手順	動画視聴
3	提案書作成の手順	動画視聴
4	提案書作成の手順	動画視聴
5	提案書作成の手順	動画視聴
6	提案書作成	作成する提案書のフォーマットをU S B にコピー。提案書全体の流れやポイントを確認する。
7	提案書作成	住宅ローンの見直し。繰上返済を行うことで総支出が大きく変わること気づく。
8	提案書作成	生命保険の見直し。年金制度や退職金について理解する。
9	提案書作成	生命保険の見直し。必要保障額の計算。
10	提案書作成	相談内容について回答する。子どもの教育費、老後の資金準備、資産運用。
11	提案書作成	キャッシュフロー表を作成する。
12	提案書修正	提案書の最初と最後あいさつ文や質問に答えているかを確認。
13	提案書印刷・課題テスト	誤字・脱字はないか、提出書類に不足はないかの最終確認。
14	調整回	調整回
15	提案書提出	課題テスト。
16		

☐ 到達目標

提出課題の完成、課題テストの合格

☐ 成績評価の方法・基準

提案書の完成、課題テストの合格した者のみ評価を行う

授業態度、提案書作成の理解、P C スキル、アドバイス作成内容を総合的に評価

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	AFP/リスク管理 I		岩本雄一		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	週1コマ=2時限×15週 週2コマ=4時限×15週	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

元広告マンなので、FPに関連する実務経験は特にありませんが、相談案件の実行支援などで、各専門家連携を取ってきました。

あえていうならば、住宅展示場を手掛ける際に、土地における各種申請をすることはありました。

☐ 授業科目の概要

FP2級技能士の取得を目指すため、テキストで知識のインプットを行い、その日のうちに演習により記憶の定着と出題パターンに慣れる。

出来るだけ多くの問題に触れてもらい、知識の取りこぼしを減らし自信を養う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ライフプランニング	関連法規、ライフプラン、住宅 & 教育プランニング
2	ライフプランニング	障害給付、遺族給付、併給調整、企業年金
3	タックスプランニング	所得控除、所得税の算出・申告納税
4	リスク管理	保険法、生保保険料・契約
5	リスク管理	損保の基礎・種類、第三分野保険、保険の見直し
6	金融資産運用	貯蓄型商品、債券、株式
7	金融資産運用	外貨建て商品、投資手法と考え方
8	不動産	不動産の法令
9	相続・事業承継	贈与税の基本、贈与性の特例
10	相続・事業承継	相続税の計算、財産評価、相続対策
11	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
12	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
13	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
14	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
15	考査	学校の教室で試験を行う
16		

☐ 到達目標

FP2級技能士の取得

別授業で行われている提案書の授業と連携してAFPの取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験70% 課題25% 出席状況・授業態度5%

毎回行う演習と後期考査の点数を考慮する。

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	AFP/相続・事業継承 I		岩本雄一		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	週1コマ=2時限×15週 週2コマ=4時限×15週	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

元広告マンなので、FPに関連する実務経験は特にありませんが、相談案件の実行支援などで、各専門家連携を取ってきました。

あえていうならば、住宅展示場を手掛ける際に、土地における各種申請をすることはありました。

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業を行う。講義内容は事前収録し、各学科・クラスのClassroom／Teams等を通して毎週配信。

学生は自宅等で視聴。講義内容は配信後、一定期間再視聴できるように設定され、復習等に活用することができる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ライフプランニング	過去問演習（関連法規、ライフプラン、住宅＆教育プランニング）
2	ライフプランニング	過去問演習（障害給付、遺族給付、併給調整、企業年金）
3	タックスプランニング	過去問演習（所得控除、所得税の算出・申告納税）
4	リスク管理	過去問演習（保険法、生保保険料・契約）
5	リスク管理	過去問演習（損保の基礎・種類、第三分野保険、保険の見直し）
6	金融資産運用	過去問演習（貯蓄型商品、債券、株式）
7	金融資産運用	過去問演習（外貨建て商品、投資手法と考え方）
8	不動産	過去問演習（不動産の法令）
9	相続・事業承継	過去問演習（贈与税の基本、贈与性の特例）
10	相続・事業承継	過去問演習（相続税の計算、財産評価、相続対策）
11	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
12	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
13	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
14	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
15	考査	学校の教室で試験を行う
16		

☐ 到達目標

FP2級技能士の取得

別授業で行われている提案書の授業と連携してAFPの取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験70% 課題25% 出席状況・授業態度5%

毎回行う課題提出と後期考査（教室で実施）の点数を考慮する。

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	AFP/ライフプランニングと資金計画Ⅰ			岩本雄一	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

元広告マンなので、FPに関連する実務経験は特にありませんが、相談案件の実行支援などで、各専門家連携を取ってきました。

あえていうならば、住宅展示場を手掛ける際に、土地における各種申請をすることはありました。

☐ 授業科目の概要

FP2級技能士の取得を目指すため、テキストで知識のインプットを行い、その日のうちに演習により記憶の定着と出題パターンに慣れる。

出来るだけ多くの問題に触れてもらい、知識の取りこぼしを減らし自信を養う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ライフプランニング	社会保険の概要：健康・介護・労災・雇用
2	ライフプランニング	公的年金の概要、老齢給付：基礎・厚生
3	タックスプランニング	所得税の基礎、所得金額算出、損益通算
4	タックスプランニング	法人税、消費税
5	リスク管理	生保の種類、生保税金、生保法人契約
6	金融資産運用	経済・金融の基礎、金融に関する法律
7	金融資産運用	投資信託、金融商品と税金
8	不動産	不動産登記、不動産取引
9	不動産	不動産の取得・保有・譲渡の税金、有効活用
10	相続・事業承継	相続の基礎、遺言・遺留分、相続税のしくみ
11	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
12	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
13	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
14	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
15	考査	学校の教室で試験を行う
16		

☐ 到達目標

FP2級技能士の取得

別授業で行われている提案書の授業と連携してAFPの取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験70% 課題25% 出席状況・授業態度5%

毎回行う演習と後期考査の点数を考慮する。

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	AFP/タックスプランニングⅠ		岩本雄一		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

元広告マンなので、FPに関連する実務経験は特にありませんが、相談案件の実行支援などで、各専門家連携を取ってきました。

あえていうならば、住宅展示場を手掛ける際に、土地における各種申請をすることはありました。

☐ 授業科目の概要

FP2級技能士の取得を目指すため、テキストで知識のインプットを行い、その日のうちに演習により記憶の定着と出題パターンに慣れる。

出来るだけ多くの問題に触れてもらい、知識の取りこぼしを減らし自信を養う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ライフプランニング	確認テスト&答合せ（社会保険の概要：健康・介護・労災・雇用）
2	ライフプランニング	確認テスト&答合せ（公的年金の概要、老齢給付：基礎・厚生）
3	タックスプランニング	確認テスト&答合せ（所得税の基礎、所得金額算出、損益通算）
4	タックスプランニング	確認テスト&答合せ（法人税、消費税）
5	リスク管理	確認テスト&答合せ（生保の種類、生保税金、生保法人契約）
6	金融資産運用	確認テスト&答合せ（経済・金融の基礎、金融に関する法律）
7	金融資産運用	確認テスト&答合せ（投資信託、金融商品と税金）
8	不動産	確認テスト&答合せ（不動産登記、不動産取引）
9	不動産	確認テスト&答合せ（不動産の取得・保有・譲渡の税金、有効活用）
10	相続・事業承継	確認テスト&答合せ（相続の基礎、遺言・遺留分、相続税のしくみ）
11	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
12	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
13	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
14	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
15	考査	学校の教室で試験を行う
16		

☐ 到達目標

FP2級技能士の取得

別授業で行われている提案書の授業と連携してAFPの取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験70% 課題25% 出席状況・授業態度5%

毎回行う演習と後期考査の点数を考慮する。

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	AFP/金融資産運用 I		岩本雄一		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

元広告マンなので、FPに関連する実務経験は特にありませんが、相談案件の実行支援などで、各専門家連携を取ってきました。

あえていうならば、住宅展示場を手掛ける際に、土地における各種申請をすることはありました。

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業を行う。講義内容は事前収録し、各学科・クラスのClassroom／Teams等を通して毎週配信し、学生は自宅等で視聴。講義内容は配信後、一定期間再視聴できるように設定され、復習等に活用することができる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ライフプランニング	過去問演習（社会保険の概要：健康・介護・労災・雇用）
2	ライフプランニング	過去問演習（公的年金の概要、老齢給付：基礎・厚生）
3	タックスプランニング	過去問演習（所得税の基礎、所得金額算出、損益通算）
4	タックスプランニング	過去問演習（法人税、消費税）
5	リスク管理	過去問演習（生保の種類、生保税金、生保法人契約）
6	金融資産運用	過去問演習（経済・金融の基礎、金融に関する法律）
7	金融資産運用	過去問演習（投資信託、金融商品と税金）
8	不動産	過去問演習（不動産登記、不動産取引）
9	不動産	過去問演習（不動産の取得・保有・譲渡の税金、有効活用）
10	相続・事業承継	過去問演習（相続の基礎、遺言・遺留分、相続税のしくみ）
11	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
12	過去問演習	過去問演習（学科試験対策）
13	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
14	過去問演習	過去問演習（実技試験対策）
15	考査	学校の教室で試験を行う
16		

☐ 到達目標

FP2級技能士の取得

別授業で行われている提案書の授業と連携してAFPの取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験70% 課題25% 出席状況・授業態度5%

毎回行う課題提出と後期考査（教室で実施）の点数を考慮する。

2026年度	後期	経営学科	1年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		起業論Ⅱ		齊藤尚仁		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

民間企業の経営企画部門での勤務後、経営コンサルタントとしての法務アドバイス等の行っている教員が職務経験を授業の中に入れることで、ビジネスの現場で活用する実践的なノウハウを享受する。

☐ 授業科目の概要

この授業では、前期に習得した「競争戦略」を基に、ドメイン設定、マーケティング戦略（ポジショニング）、およびマーケティング戦術（4P）について、講師のコンサルタント実例や有名事例を交えながら学ぶ。資格取得で得た基礎知識を、実務で活用できるようにすることを目的とする。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	環境変化への対応
2	経営戦略	ドメイン（ターゲットの設定、ニーズの明確化）
3	経営戦略	ドメイン（差別的優位性）
4	マーケティング戦略	マーケティング概要
5	マーケティング戦略	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング
6	マーケティング戦略	C R M戦略（データマーケティング）
7	マーケティング戦略	C R M戦略（F S P）
8	マーケティング戦略	One to One戦略
9	マーケティング戦略	商品・サービス戦略（ブランド、差別化）
10	マーケティング戦略	立地戦略（商圈調査）
11	マーケティング戦略	価格戦略（価格設定方法）
12	マーケティング戦略	プロモーション戦略（マーケティングミックス）
13	マーケティング戦略	プロモーション戦略（S N S）
14	まとめ（演習）	過去の授業を振り返り、補足説明をする 後期考查模擬演習を行う
15	後期考查	
16		

☐ 到達目標

企業経営分野における実務に関する知識を習得している

☐ 成績評価の方法・基準

試験80％ 出席状況・授業態度20％

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		教養Ⅲ		馬場裕		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

物流系の民間企業で海外担当として従事。内5年間は海外赴任 その後大学教員に転身。
企業の人材育成と大学でのキャリア教育の経験を活かし、人的資源管理論などを指導する。

授業科目の概要

前半は、就職活動に向け、SPI対策、時事問題への理解を深める。
後半は、ロジカルコミュニケーションを中心とした、論理的思考力の向上を目指す。

授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介、SPI概要、適性診断
2	SPI①	SPI模擬テスト（非言語）実施、適性診断結果の通知と見方について
3	SPI②	（非言語）推論と資料の読み取り
4	SPI③	（非言語）確率、速さ、食塩水他
5	SPI④	（言語）同意語/範囲後、二語の関係、敬語、ことわざ
6	時事問題①	時事問題テストと解説
7	時事問題②	時事問題テストと解説
8	時事問題③	時事問題テストと解説
9	時事問題③	時事問題テストと解説
10	時事問題③	時事問題テストと解説
11	ロジカルコミュニケーション①	ロジカルシンキングの重要性、「問題解決」「意思決定」「優先順位」の3つの基本構成、レポート提出
12	ロジカルコミュニケーション②	グループワーク、レポート提出
13	ロジカルコミュニケーション③	タスクの分解（論理的な手法を用いた、課題解決）、レポート提出
14	ロジカルコミュニケーション④	表現（報告、依頼、相談、提案）の基本理解、レポート提出
15	定期考査	
16		

到達目標

就職内定を確保すべく、基礎力の向上

成績評価の方法・基準

出席：30%、授業態度：30%、定期考査：40%

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	ビジネスコミュニケーションⅢ		キャリアサポートセンター		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

人事担当としての実務経験を活かし、企業が重視する評価ポイントを的確に伝えるときに、面接対応や履歴書の作成について、具体的な成功事例や改善点を交えながら丁寧に指導します。自己理解を深め、戦略的な就職活動につなげる授業を展開します。

☐ 授業科目の概要

1年後期からの準備を踏まえて、実際に就職活動を行っていく。学生一人一人が現在の自分の就職活動状況に合わせ活動を行い、個別の面談も並行して行っていく。時には企業を呼び説明会を行うなど、就職決定に向けた実践的な授業を行う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
2	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
3	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
4	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
5	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
6	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
7	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
8	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
9	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
10	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
11	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
12	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
13	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
14	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
15	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にやっていく。企業に来ていただき説明をしていただく。

☐ 到達目標

- ①就職決定を到達目標とする
- ②また、全学生が、授業課題と試験をクリアすること

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題50% 出席状況・授業態度100%

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	MOS演習 I			平野五月	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			1	2×15	週 1コマ＝2時限×15週 週 2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

マイクロソフトオフィシャルトレーナーとして、企業研修や企業セミナー、インストラクター養成講座を10年行っていた経験を踏まえ、MOS演習の指導にあたる

☐ 授業科目の概要

実戦で役立つ「PowerPoint」の基礎知識を養う。
MOSの資格取得を通して、実務で役立つPowerPointのスキルを習得する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	MOSとは、フォルダ作成、TPとは
2	MOS PowerPoint対策	TP、事前学習データ
3	MOS PowerPoint対策	出題範囲 1・模擬
4	MOS PowerPoint対策	出題範囲 2・模擬
5	MOS PowerPoint対策	出題範囲 1・2 模擬
6	MOS PowerPoint対策	出題範囲 3・模擬
7	MOS PowerPoint対策	出題範囲 4・模擬
8	MOS PowerPoint対策	出題範囲 3・4 模擬
9	MOS PowerPoint対策	出題範囲 5・模擬
10	MOS PowerPoint対策	出題範囲 1～5 模擬
11	MOS PowerPoint対策	模擬練習問題 1～5
12	MOS PowerPoint対策	模擬練習問題 1～5
13	MOS PowerPoint対策	模擬練習問題 1～5
14	MOS PowerPoint対策	模擬練習問題 1～5
15	後期考査	
16		

☐ 到達目標

MOS「PowerPoint」スペシャリスト取得

☐ 成績評価の方法・基準

模擬試験レポート80% 出席状況10% 授業態度10%

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		簿記2級演習Ⅰ		柴野宏行		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

税理士として顧問先の税務や経営指導を行っている教員が、
簿記会計の基礎知識、株式会社の会計を中心とした応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

日商簿記検定2級合格を目標として演習を行う。
前半は個別論点別の演習、後半は模擬試験問題の演習を行う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	演習1	商業簿記（簿記一巡）工業簿記（勘定連絡）
2	演習2	商業簿記（商品売買）工業簿記（個別原価計算）
3	演習3	商業簿記（現金預金・金銭債権）工業簿記（部門別個別原価計算）
4	演習4	商業簿記（有価証券）工業簿記（総合原価計算）
5	演習5	商業簿記（固定資産）工業簿記（標準原価計算）
6	演習6	商業簿記（負債・純資産）工業簿記（直接原価計算）
7	演習7	模擬試験問題1、リース会計
8	演習8	模擬試験問題2、外貨建会計
9	演習9	模擬試験問題3、税効果会計
10	演習10	模擬試験問題4、本店支店会計
11	演習11	模擬試験問題5、連結会計
12	演習12	模擬試験問題6、連結会計
13	演習13	模擬試験問題7、連結会計
14	演習14	総まとめ
15	前期考査	
16		

☐ 到達目標

日商簿記検定2級合格レベル

☐ 成績評価の方法・基準

定期試験60% 平常点40%

なお、平常点については、授業遅刻回数・提出物の適否・授業態度等を勘案して適宜減点する。

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	簿記3級演習Ⅰ		柴野宏行		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

税理士として顧問先の税務や経営指導を行っている教員が、
簿記会計の基礎知識、株式会社の会計を中心とした応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

日商簿記3級の取得に向けたテスト形式演習授業

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	実力診断テスト、自己採点、授業の進め方等の説明
2	テスト形式演習①	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
3	テスト形式演習②	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
4	テスト形式演習③	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
5	テスト形式演習④	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
6	テスト形式演習⑤	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
7	テスト形式演習⑥	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
8	テスト形式演習⑦	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
9	テスト形式演習⑧	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
10	テスト形式演習⑨	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
11	テスト形式演習⑩	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
12	テスト形式演習⑪	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
13	テスト形式演習⑪	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
14	テスト形式演習⑪	60分演習、自己採点、解説、テーマ別弱点補強
15	テスト	60分テスト2セット
16		

☐ 到達目標

日商簿記検定3級合格レベル

☐ 成績評価の方法・基準

定期試験60% 平常点40%

なお、平常点については、授業遅刻回数・提出物の適否・授業態度等を勘案して適宜減点する。

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	宅建Ⅲ			高田清志	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			3	6×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

簿記会計の基礎知識から応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

宅建合格のための論点の習得と演習

知識の習得と問題の演習

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	法令上の制限①	都市計画法（論点学習）
2	法令上の制限②	都市計画法（演習）
3	法令上の制限②	建築基準法（論点学習）
4	法令上の制限③	建築基準法（演習）
5	法令上の制限④	農地法、国土利用計画法（論点学習、演習）
6	法令上の制限⑤	宅地造成等規制法、土地区画整理法（論点学習、演習）
7	税その他①	税金全般（論点学習）
8	税その他②	税金全般（演習）
9	総合演習①	過去問演習
10	総合演習②	予想問題①
11	総合演習③	予想問題②
12	総合演習④	予想問題③
13	総合演習⑤	予想問題④
14	総合演習⑥	予想問題⑤、今年度の法令改正ポイント
15	テスト	本試験形式
16		

☐ 到達目標

宅建士合格

☐ 成績評価の方法・基準

欠席0…30以上、欠席1…40以上

欠席2…50以上、欠席3…60以上 合格

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		企業研究Ⅲ		齊藤尚仁		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

民間企業の経営企画部門での勤務後、経営コンサルタントとしての法務アドバイス等のを行っている教員が職務経験を授業の中に入れることで、ビジネスの現場で活用する実践的なノウハウを享受する。

☐ 授業科目の概要

職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として企業経営分野における実務に関する知識の習得をねらう。
本授業は、就職活動の際に初めて目にするエントリーシートを通じて、雇用契約の着眼点を実際の企業の募集要項をみながら講師が解説していく。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	求人票の見方①	労働契約法
3	求人票の見方②	労働基準法（労働時間、残業時間、休憩・休日等）
4	求人票の見方③	労働基準法（基本給、諸手当、退職金等）
5	求人票の見方④	労働諸法（労災法、男女雇用均等法、安衛法等）
6	募集要項と業種の特徴①	小売業
7	募集要項と業種の特徴②	卸売業（商社）
8	募集要項と業種の特徴③	サービス業（飲食、美容、コンサルタント等）
9	募集要項と業種の特徴④	IT業
10	募集要項と業種の特徴⑤	不動産業（賃貸・販売）
11	募集要項と業種の特徴⑥	製造業
12	（調整回）	（調整回）
13	グループワーク	調査・発表
14	総まとめ	
15	レポート	
16		

☐ 到達目標

企業の募集要項を一人で読めて、分析できるようになる。

☐ 成績評価の方法・基準

レポート内容と出席率、講義態度を総合的に判断し評価する。

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		商業簿記Ⅱ		柴野宏行		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本選択		講義・演習		2	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

税理士として顧問先の税務や経営指導を行っている教員が、
簿記会計の基礎知識、株式会社の会計を中心とした応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

株式会社の会計を中心として応用レベルの取引の処理及び決算手続を学習する。
日商簿記検定2級商業簿記レベルの実力を身に付けることを目標とする。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	取引の処理（1）	商品売買
2	取引の処理（2）	現金預金
3	取引の処理（3）	金銭債権
4	取引の処理（4）	有価証券
5	取引の処理（5）	固定資産・リース会計
6	取引の処理（6）	引当金・外貨建取引
7	取引の処理（7）	株式会社
8	取引の処理（8）	課税所得・税効果会計
9	決算手続	精算表・財務諸表
10	本支店会計	内部取引・財務諸表
11	連結財務諸表	資本連結（1）
12	連結財務諸表	資本連結（2）
13	連結財務諸表	成果連結（1）
14	連結財務諸表	成果連結（2）
15	前期考査	
16		

☐ 到達目標

日商簿記検定2級商業簿記レベル

☐ 成績評価の方法・基準

定期試験60％ 平常点40％

なお、平常点については、授業遅刻回数・提出物の適否・授業態度等を勘案して適宜減点する。

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		FPアドバンス		岩本雄一		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		3	6×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

元広告マンなので、FPに関連する実務経験は特にありませんが、相談案件の実行支援などで、各専門家連携を取ってきました。
あえていうならば、住宅展示場を手掛ける際に、土地における各種申請をすることはありました。

☐ 授業科目の概要

FP2級技能士の資格試験対策
基本の6科目を講義と演習で理解を深める。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	過去問演習	3級学科演習
2	過去問演習	3級学科演習
3	過去問演習	3級学科演習
4	過去問演習	3級学科演習
5	過去問演習	3級実技演習
6	過去問演習	3級実技演習
7	過去問演習	3級実技演習
8	過去問演習	2級学科演習
9	過去問演習	2級学科演習
10	過去問演習	2級学科演習
11	過去問演習	2級実技演習
12	過去問演習	2級実技演習
13	過去問演習	2級実技演習
14	過去問演習	2級実技演習
15	前期考査	13:30～試験対策補講/15:10～前期考査
16		

☐ 到達目標

FP2級技能士合格

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 授業態度：30% 出席状況20%
試験の点数、授業に対するやる気を最重視します。

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		生活の中のFPⅡ		高橋ゆり		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

投信信託店舗、大手国内保険会社に勤務後、確定拠出年金、投資信託のセミナー講師として活動
CFP取得者として、ファイナンシャルプランナーの観点から授業を行う。

☐ 授業科目の概要

お金のみならず、経済や職業、制度を知り、金融リテラシーを高めていくことを目的とする。
学生が主体となりプレゼンテーマ決め、テーマごとにグループを作り、話し合い、調べ、まとめ、金融プレゼンを行う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業内容の説明。第1回目のプレゼンに向けグループ分けを行う。
2	第1回プレゼン準備	グループワーク
3	第1回プレゼン準備	グループワーク
4	第1回プレゼン準備	グループワーク
5	第1回プレゼン発表	各グループ発表
6	第2回プレゼン準備	グループワーク
7	第2回プレゼン準備	グループワーク
8	第2回プレゼン準備	グループワーク
9	第2回プレゼン準備	グループワーク
10	第2回プレゼン発表	各グループ発表
11	第3回プレゼン発表	グループワーク
12	第3回プレゼン準備	グループワーク
13	第3回プレゼン準備	グループワーク
14	第3回プレゼン準備	グループワーク
15	第3回プレゼン準備	各グループ発表
16		

☐ 到達目標

グループ内での自分の役割を理解し、力を発揮する

☐ 成績評価の方法・基準

グループワーク貢献度：50%
出席状況：50%

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	宅建Ⅰ・Ⅲ			高田清志	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			3	6×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

簿記会計の基礎知識から応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

宅建合格のための論点の習得と演習

知識の習得と問題の演習

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	権利①	総則 1（一般原則、制限行為能力者、意思表示）
2	権利②	総則 2（代理、時効、その他）
3	権利③	債権（損害賠償、売買、契約全般）
4	権利④	物件（所有権、共有、抵当権など）
5	宅建業法演習①	宅建業法過去問演習
6	権利⑤	相続、家族
7	権利⑥	借地借家法
8	権利⑦	区分所有法、不動産登記法、
9	宅建業法演習②	宅建業法過去問演習
10	税その他①	住宅金融支援機構、地価公示法、土地鑑定評価基準
11	税その他②	土地、建物、不当景品表示法など
12	税その他③	統計データ、税その他問題演習①
13	税その他④	統計データ、税その他問題演習②
14	宅建業法演習③	宅建業法過去問演習
15	テスト	本試験形式
16		

☐ 到達目標

宅建士合格

☐ 成績評価の方法・基準

欠席 0 … 3 0 以上、欠席 1 … 4 0 以上

欠席 2 … 5 0 以上、欠席 3 … 6 0 以上 合格

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	日本の企業経営Ⅰ		倉原照幸		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

本授業は、「日本の企業経営」の理論と実践を体系的に学ぶことによって、実社会に出た時に役立つ「実学」を重視した授業を展開いたします。
また、昨今は、企業のグローバル化が進む中で、「日本の企業経営」と「海外の企業経営」を対比しながら、時代に即応した企業経営を学んでいきます。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	イントロダクション	授業のすすめ方、評価の仕方について説明し、授業終了時の到達目標などを提示する。 現行、起きている社会状況を企業経営の立場から考察する。
2	日本の企業経営の歴史①	概説：幕末から明治前期の経済。
3	日本の企業経営の歴史②	経営者の誕生：明治から昭和の経営者。
4	日本の企業経営の歴史③	戦後の日本経営のありかた。高度経済成長期から現代の経営手法。
5	企業経営とは何か①	初めて学ぶ日本の経営概論。
6	企業経営とは何か②	社会と経営：企業経営と社会の結びつきを知る。
7	日本の企業システム①	日本の企業システムの特徴。
8	日本の企業システム②	日本の企業システムと海外の比較。
9	ベンチャー企業の経営①	ベンチャー企業経営の特徴と課題。
10	ベンチャー企業の経営②	ベンチャー企業の展望。
11	企業経営（事例考察）①	EC事業会社をテーマにケーススタディ。2社程度予定。
12	企業経営（事例考察）②	注目するスタートアップ企業を考察する。2社程度
13	国際比較（米国編）	米国と日本の企業経営の特徴を比較検討。
14	国際比較（ヨーロッパ編）	特にドイツ、イギリス企業と日本企業の特徴を比較検討。
15	前期のまとめ	前期授業の重要ポイントに絞ったまとめ。
16		

☐ 到達目標

- 日本の企業経営のこれまでの歴史の考察を出来ること。
- 日本の企業システムと経営管理について理解出来ること。
- 国際比較を通じて、日本の企業経営の相違性を検証出来ること。

☐ 成績評価の方法・基準

- 課題レポートの提出（70%）
- 期末テスト（30%）

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	ビジネス経済・時事		増田勝則		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

ビジネスの基礎となる経済や時事の重要なポイントを学ぶ。経済指数や市場の動向に焦点をあて、現代のビジネスでの意思決定に必要な知識を、身につける。最新の情報を取り入れ、変化する環境で柔軟かつ戦略的なアプローチを学ぶ。社会人としての雑談力を身につけるための基礎を学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	情報リテラシーとは？	講師の紹介。経済ニュースを読み解く。情報リテラシーの必要性。各講座で一週間のニュース、トレンド分析、解説。
2	①変化する社会世の中の動きを知る	将来を考える5つの環境変化「日本、世界、技術、労働、企業」の5つの面で変化を観測。※教科書より「雑談の必要性」
3	②変化する社会世の中の動きを知る	持続可能な発展。企業の価値と評価が大きく変わる。「ESG、SDGsが企業に与える影響」※教科書より「敬語の重要性と聞きやすい会話術」
4	③変化する社会世の中の動きを知る	AIの脅威。すべてのものがインターネットでつながるIoT技術を活用した社会に変化。※教科書より「雑談のネタ集め」話題作り。
5	①ハンバーガーから学ぶ	ハンバーガーが生み出す経済効果。「値上げ巧みなハンバーガー、価格は20年で3割上昇」消費者物価指数って？※教科書より「日経電子版という情報ツール」
6	②ハンバーガーから学ぶ	「為替」通貨の価値に地域差！（スイスの物価が高い理由は？）意外と知られていないユニークな経済指数。※教科書より「仕掛ける雑談の作り方」
7	③ハンバーガーから学ぶ	「生産」→消費されるまでは、いろいろな学問が組み合わされている。※教科書より「雑談の実例を紹介」
8	④ハンバーガーから学ぶ	テンプレッ「TNPREP」の法則。TNPREP法で一例をあげてみましょう。決算には様々な利益が。
9	注目されるインバウンド	インバウンド需要は日本の国内消費額における減少分をカバーできると期待。直接的な経済活性だけでなく、間接的経済活性も生む。※教科書より「答えを導く質問法」
10	身近な税金について	私たちが暮らす社会には、たくさんの種類の税があります。どんな税金をどうやって納めているか？※教科書より「すぐに使える雑談ネタ帳」
11	①知っておきたいキーワード	日本と世界を動かすキーワード ビジネスを変える最新キーワード
12	②知っておきたいキーワード	日本と世界を動かすキーワード ビジネスを変える最新キーワード
13	期末試験	3回の小テストと教科書の内容から実施。4択問題と記述問題。
14	振り返り・試験解説	期末試験の解説。前期講義の振り返り。
15		

☐ 到達目標

経済の基本原則を理解し、最新の時事問題に対する洞察を深め
実際のビジネス状況で応用できるようになる。

☐ 成績評価の方法・基準

試験70% 課題10% 出席状況・授業態度20%

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	起業論Ⅲ			齊藤尚仁	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

民間企業の経営企画部門での勤務後、経営コンサルタントとしての法務アドバイス等のを行っている教員が職務経験を授業の中に入れることで、ビジネスの現場で活用する実践的なノウハウを享受する。

☐ 授業科目の概要

前年習得した「競争戦略」を中心とした経営戦略をベースにして、（１）資金調達（BS）、（２）付加価値向上（PL）、（３）資金繰り（CF）まで、会社を運営するにあたり財務の知識を、講師が携ったコンサルタント実例、著名な事例を交えながら講義する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	事業計画概要
2	経営戦略	SWOT分析
3	経営戦略	ビジネスコンセプト・ドメイン
4	経営戦略	競争戦略・成長戦略
5	マーケティング戦略	STP（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング）
6	マーケティング戦略	価格・製品戦略
7	マーケティング戦略	立地戦略
8	財務・会計戦略	PL（売上拡大、損益分岐点文責）
9	財務・会計戦略	BS（資金調達）
10	財務・会計戦略	事業計画（飲食店開業計画）
11	財務・会計戦略	事業計画（不動産店開業計画）
12	財務・会計戦略	事業計画（ネット通販店開業計画）
13	グループワーク	調査・発表
14	総まとめ	考査前まとめ
15	後期考査	レポート
16		

☐ 到達目標

資金調達のための、事業計画が作成できる

☐ 成績評価の方法・基準

- ①講義を通じて習得した知識をもとに、自分の考えを加味したレポートを最終講義時間に作成（４段階で相対評価）。
- ②夏休み期間中に、講師より課題を与えレポートを提出。レポート内容により、４段階で相対評価。
- ③①、②に加え、出席状況、講義内での態度等を総合的に加味し、評価を行う

2026年度	前期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ビジネスコミュニケーションⅢ			瀧田 崇		
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			1	2時限×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

1年時後期から引き続き、留学生の国内就労に必要な、日本独特の就活文化に対応するための基本的な知識を学び、
ロープレなどを交えながら自力でしか解決できない就活での各場面に対応するための能力を涵養する

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	留学生の就労	就職活動を進める上で必要な在留資格に関する知識を学ぶ
2	企業説明会参加の心構え	企業説明会参加時の心構えや注意事項の解説
3	求人票の読み方	求人票記載事項の説明と、企業側のホンネを読み取る
4	就活に必要な「印象」について	1年次で学んだスーツ着こなしの再確認および、好印象を得るためのテクニックについて学ぶ
5	面接①	段階別の面接の意義を、企業側の視点を中心に解説し、受け答えのための基礎知識を学ぶ
6	面接②	面接の種類やその対応策について学ぶ
7	面接③	面接の受け答えについて、特に留学生が陥りやすい日本語ニュアンスや所作について、ロープレを交えながら学ぶ
8	面接④	面接の場面で起きたアクシデントについてのケーススタディ
9	企業への連絡	各段階での企業とのメールや電話でのやりとりにおいて、特に留学生が陥りやすい日本語ニュアンスをケーススタディを交えながら学ぶ
10	内定後のこと	内定後に求められる振る舞い、内定辞退について学ぶ
11	日本/日系企業で働くとは	日本の企業文化を紹介し、就労後求められる「日本で働くための考え方」について学ぶ
12	日本企業における外国人社員	卒業生事例を中心に、入社後の諸問題についてのケーススタディを行う
13	校内企業説明会予備日	15コマ内で行われるキャリアサポートセンター誘致企業の校内説明会実施（日程未定）
14	国内就労にあたって	内定後の手続きや在留資格変更を含めた、関連する入管法の項目などを理解する
15	前期期末試験	

☐ 到達目標

卒業（就職）後を見据え、企業が求める人材としての振る舞いを学び、真に国内企業に定着できる人材としての素養を涵養する

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題25% 出席状況・授業態度25%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		教養Ⅳ		馬場 裕		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

物流系の民間企業で海外担当として従事。内5年間は海外赴任 その後大学教員に転身。

企業の人材育成と大学でのキャリア教育の経験を活かし、人的資源管理論などを指導する。

☐ 授業科目の概要

間近に迫った卒業後すぐに求められるビジネスマナーについて、1年次に学んだ知識を応用し、より実践的な力を身につける

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	2年前期までの振り返り、2年後期も目標設定、卒業までの単位確認
2	HR	授業についての概要・目標説明、ビジネスマナーレベルチェック
3	ビジネスマナー 復習	ビジネスマナー検定 復習
4	ビジネス文書 復習	ビジネス文書検定 復習
5	ビジネスマナー 実践	敬語①
6	ビジネスマナー 実践	敬語②
7	ビジネスマナー 実践	社内メール
8	ビジネスマナー 実践	社外メール
9	ビジネスマナー 実践	電話対応
10	ビジネスマナー 実践	訪問①
11	ビジネスマナー 実践	訪問②
12	ビジネスマナー 実践	冠婚葬祭
13	ビジネスマナー 実践	文書作成
14	ビジネスマナー 実践	ビジネスマナー 総復習
15	ビジネスマナー 実践	考査
16		

☐ 到達目標

入社後、すぐに必要となるビジネスマナーを身につける

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ビジネスコミュニケーションⅣ		馬場 裕		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

物流系の民間企業で海外担当として従事。内5年間は海外赴任 その後大学教員に転身。
企業の人材育成と大学でのキャリア教育の経験を活かし、人的資源管理論などを指導する。

☐ 授業科目の概要

ビジネスシーンで役立つ文章力向上。（ビジネス文章術）
言葉では簡単に説明できる内容を文章にしたとき、相手に失礼なく、わかりやすく端的にまとめる力を補う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ビジネス文章術レッスン	要約力、誤字脱字、わかりやすい文章
2	ビジネス文章術レッスン	敬語の基礎、失礼にならない敬語、敬語を使う
3	文章の基本	絵や地図をわかりやすい文章にする、説明する、説明のコツ
4	文章の基本	句読点の使い方、確実な連絡メモ、アンケートのとりかた
5	文章の基本	伝わる文章の書き方、ビジネスシーンで役立つ言い換え
6	ビジネスメールの基本	ビジネスメール、メールの書き方
7	シンプルな文にする	段取りを考えて連絡する、話し言葉と聞き言葉の違い
8	ビジネス文書の基本	相手に失礼なく依頼する、質問する、ビジネス文書をかく
9	実用的な文書を書く	人を紹介する、説明する、文章を要約する
10	課題	ビジネス文書検定過去問
11	課題	ビジネス文書検定過去問
12	課題	ビジネス文書検定過去問
13	課題	ビジネス文書検定過去問
14	課題	ビジネス文書検定過去問
15	後期考査	総復習課題
16		

☐ 到達目標

社会人に必要とされる文章術向上

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		MOS演習Ⅱ		平野五月		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本選択		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

マイクロソフトオフィシャルトレーナーとして、企業研修や企業セミナー、インストラクター養成講座を10年行っていた経験を踏まえ、
MOS Excel 365 & 2019 Specialist の指導にあたる

☐ 授業科目の概要

国際的な資格であるMicrosoft社が認定するMOSを通じて、今後の生活や仕事で活用できる実践力を育成
MOS Excel 365 & 2019 Specialist 合格をサポート

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業ガイダンス、MOSの概要説明、タイピングのコツ
2	Excel2019	実務で使いこなすExcelのコツ 1 データベースを使いこなそう
3	Excel2019	実務で使いこなすExcelのコツ 1 データベースを使いこなそう
4	Excel2019	実務で使いこなすExcelのコツ 2 Excel関数の使いこなし
5	Excel2019	実務で使いこなすExcelのコツ 2 Excel関数の使いこなし
6	Excel2019	実務で使いこなすExcelのコツ 3 ビジネスツール ダッシュボードを作成してみよう
7	Excel2019	MOS Excel 365 & 2019 Specialist 試験対策
8	Excel2019	MOS Excel 365 & 2019 Specialist 試験対策
9	Excel2019	MOS Excel 365 & 2019 Specialist 試験対策
10	Excel2019	MOS Excel 365 & 2019 Specialist 試験対策
11	Excel2019	MOS Excel 365 & 2019 Specialist 試験対策
12	Excel2019	MOS Excel 365 & 2019 Specialist 試験対策
13	Excel2019	MOS Excel 365 & 2019 Specialist 試験対策
14	リフレクション	後期授業振り返り・試験対策
15	考査	後期試験
16		

☐ 到達目標

MOS試験の出題範囲を演習問題に
取り組みながら網羅する

☐ 成績評価の方法・基準

試験70% 課題10% 出席状況・授業態度20%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		簿記2級演習Ⅱ		高田清志		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

宅建士の資格取得から、実務での活用例について享受する。

☐ 授業科目の概要

日商簿記検定2級合格を目標として演習を行う。

本試験レベルの問題を60分で演習し解説をする

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	個別論点再確認	商業簿記 商品売買 現金預金
2	個別論点再確認	商業簿記 債権 債務
3	個別論点再確認	商業簿記 有価証券(1)
4	個別論点再確認	商業簿記 有価証券(2)
5	個別論点再確認	商業簿記 有価証券(3)
6	個別論点再確認	商業簿記 有形固定資産(1)
7	個別論点再確認	商業簿記 有形固定資産(2)
8	個別論点再確認	商業簿記 有形固定資産(3)
9	個別論点再確認	商業簿記 リース取引 無形固定資産 研究開発費
10	個別論点再確認	商業簿記 引当金 外貨換算会計
11	個別論点再確認	商業簿記 税金 課税所得 税効果会計
12	個別論点再確認	商業簿記 株式の発行 剰余金 配当と処分
13	個別論点再確認	商業簿記 決算手続き 収益費用の認識基準
14	個別論点再確認	商業簿記 本支店会計 合併事業譲渡
15	テスト	小論文 発表
16		

☐ 到達目標

日商簿記検定2級合格レベル

☐ 成績評価の方法・基準

毎回の課題レポート提出（7割） 小論文3割

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		簿記3級演習Ⅱ		高田清志		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、大手銀行に5年間勤務、その後住宅メーカーでの勤務を経て金融コンサルタントとして独立。

宅建士の資格取得から、実務での活用例について享受する。

☐ 授業科目の概要

本試験レベルの問題を60分で演習し解説をする

一人でも多く簿記三級合格者を出すための演習授業

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	簿記演習①	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
2	簿記演習②	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
3	簿記演習③	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
4	簿記演習④	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
5	簿記演習⑤	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
6	簿記演習⑥	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
7	簿記演習⑦	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
8	簿記演習⑧	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
9	簿記演習⑨	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
10	簿記演習⑩	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
11	簿記演習⑪	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
12	簿記演習⑫	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
13	簿記演習⑬	テスト形式演習60分 ○付け解説30分
14	簿記演習⑭	テスト形式演習60分 ○付け解説30分 半年間の総評
15	テスト	その場で簿記に関するテーマを与え、小論文作成
16		

☐ 到達目標

日商簿記3級取得

☐ 成績評価の方法・基準

出席Max30点 テスト100点

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		簿記1級・財務諸表論		柴野宏行		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
自由選択		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

税理士として顧問先の税務や経営指導を行っている教員が、
簿記会計の基礎知識、株式会社の会計を中心とした応用レベルの取引の処理及び決算手続について享受する。

☐ 授業科目の概要

財務諸表論講義、演習により、日商簿記検定1級の取得をめざす

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	財務諸表論	講義形式
2	財務諸表論	講義形式
3	財務諸表論	講義形式
4	財務諸表論	講義形式
5	財務諸表論	講義形式
6	簿記計算1級	講義形式にて、知識を習得
7	簿記計算1級	講義形式にて、知識を習得
8	簿記計算1級	講義形式にて、知識を習得
9	簿記計算1級	講義形式にて、知識を習得
10	簿記計算1級	講義形式にて、知識を習得
11	簿記計算1級	講義形式にて、知識を習得
12	簿記計算1級	演習
13	簿記計算1級	演習
14	簿記計算1級	演習
15	後期考査	
16		

☐ 到達目標

日商簿記検定1級の取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験 50% 出席状況 50%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		マネー・プランニング実践		水野崇		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本選択		講義・演習		2	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師は水野総合FP事務所代表を務め、相談、執筆・監修、講演・講師、取材協力、メディア出演など幅広い業務に携わる。
CFP、1級FP技能士、宅建士、証券外務員1種等の資格を有し、金融資産設計の専門家・実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

金融、資産運用、不動産、住宅ローン、税制、保険、年金、相続など、生活事例も取り上げながら、人の一生にまつわる
ファイナンシャル・プランニングの広範囲なテーマに触れる。人生のさまざまなステージに必要なライフプランの実践力を養成する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	ライフプランニングと資金計画	サーティファイド・ファイナンシャル・プランナー（CFP）とは？／収入と支出
2	ライフプランニングと資金計画	関連法規／人生の3大資金（教育資金・住宅資金・老後資金）／各種ローン／クレジットカード
3	ライフプランニングと資金計画	健康保険・国民健康保険／雇用保険／国民年金・厚生年金／ライフプランとキャッシュフロー表
4	リスク管理	保険の基本／個人を取り巻くリスク
5	リスク管理	生命保険／損害保険／第三分野の保険
6	金融資産運用	経済と金融の基本／金融経済の仕組み／日本経済の動向と家計への影響
7	金融資産運用	貯蓄／金利（単利と複利）／リスクとリターン
8	金融資産運用	債券／株式／投資信託／先物オプション
9	タックスプランニング	我が国の税制／税金の種類／所得税の基礎／住民税／消費税
10	タックスプランニング	10種類の所得／所得控除／税額控除
11	不動産	不動産登記／不動産の税金
12	不動産	不動産に関する法令／建築基準法／都市計画法
13	不動産	不動産価格・鑑定評価
14	相続・事業承継	相続の基礎知識／相続の考え方／遺言／生前贈与
15	相続・事業承継	相続税／贈与税／財産の評価／事業承継
16		

☐ 到達目標

ライフプラン、保険、資産運用、税金、不動産、相続など
CFP・6分野の知識を深め実践できる

☐ 成績評価の方法・基準

出席状況・授業態度100%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		投資の基礎Ⅱ		水野崇		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本選択		講義・演習		1	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師は水野総合FP事務所代表を務め、相談、執筆・監修、講演・講師、取材協力、メディア出演など幅広い業務に携わる。

CFP、1級FP技能士、宅建士、証券外務員1種等の資格を有し、金融資産設計の専門家・実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

株式投資・為替取引の模擬売買を行い、価格変動の背景にある現実の経済・社会の動きに目を向けることを目的とする。

投資の意義、経済・社会の変化や影響、資産形成などについて、関心と理解を深める。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	資産形成を体験しよう	金融商品を選んで資産運用を行う体験プログラム、金融商品のリスクとリターンや資産形成について学ぶ
2	金融・経済、金融クイズ	経済や金融に関するさまざまなテーマをゲームの世界で体験的に学ぶ
3	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
4	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
5	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
6	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
7	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
8	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
9	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
10	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
11	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
12	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
13	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
14	株式学習ゲーム／為替取引アプリ	実際の株価・為替レートに基づいて模擬売買を行う
15	後期考査	これまでの授業を振り返り、一人一人の株式投資・為替取引の実践結果を発表
16		

☐ 到達目標

ゲームや為替取引アプリを通じて、為替変動や株式の
経済的意義、金融マーケットのしくみについて理解する

☐ 成績評価の方法・基準

出席状況・授業態度100%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		FP総論		高橋ゆり		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本選択		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

投信信託店舗、大手国内保険会社に勤務後、確定拠出年金、投資信託のセミナー講師として活動
CFP取得者として、ファイナンシャルプランナーの観点から授業を行う。

☐ 授業科目の概要

お金のみならず、経済や職業、制度を知り、金融リテラシーを高めていくことを目的とする。
授業を通じてF Pの知識が生活に欠かせない知識であることを知る。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	金融リテラシー	金融庁高校向け金融リテラシープログラムの視聴、テスト
2	ライフプランを考える	自分自身のライフプランを考えてみる
3	お金を借りる	クレジットカードから住宅ローンまで幅広く「借りる」を知る
4	お金と経済	身近な経済
5	ゲストの講話	不動産業界、保険業界、金融業界とは？ 営業ってどんな仕事？
6	F P 資格を活かす	FPはどんな業界で活かしているのか、また今後どのような業界や分野で活かせると思うか調べる
7	見学前事前調べ	東京証券取引所とは どんなところなのか、何を見てみたいのか調べる
8	校外学習	東京証券取引所 館内見学、株式投資ゲーム
9	民間保険	生命保険、損害保険、少額短期保険
10	民間保険	社会保険を再確認、自分が加入する保険を考えてみる、発表
11	金融映画視聴	金融システムを知る
12	iDeCo	iDeCoのしくみ、企業型との違い、運用とは
13	iDeCo	超長期運用のための商品選びとは 投資信託について調べる
14	税金	税金について調べてみよう
15	前期考査	前期まとめテスト
16		

☐ 到達目標

FPの知識が生活に活かされることを知る

☐ 成績評価の方法・基準

出席 50% 学習への意欲 50%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ビジネスアイデア実践編		齊藤尚仁		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	4×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

民間企業の経営企画部門での勤務後、経営コンサルタントとしての法務アドバイス等の行っている教員が職務経験を授業の中に見えることで、ビジネスの現場で活用する実践的なノウハウを享受する。

☐ 授業科目の概要

新商品・新サービスの企画開発は組織発展に重要な役割を果たすものであり、働く人や起業を目指す人にも役立つ知識である。この講義では、経営戦略やマーケティング理論を基に商品価値やコンセプトの立て方を学び、受講生がアイデアを創出し、ビジネスに繋がるようにコンセプトを設計する演習を行う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション ビジネスモデル、個人演習の説明	講師紹介、講義の進め方、新商品・新サービスの企画開発業務の紹介 アマゾンやユニクロ等のビジネスモデルと新商品・新サービスの関係を説明、個人演習の内容説明
2	SWOT分析 個人演習：アイデアの創出	環境分析（SWOT分析）から、ビジネスチャンスとセールスポイントを発見する方法を講義する 個人演習：新商品・新サービス企画開発のアイデア探しの着目点を中心に講義し、実際アイデアを探す（次回までの宿題）
3	ドメイン 個人演習：アイデアの広げ方	ドメインを軸に、ターゲティングとポジショニングの重要性を講義する 個人演習：探したアイデアを広げる方法（切り口や個人ブレインストーミング等）を中心に講義し、自分のアイデアを広げる（次回までの宿題）
4	商品価値 個人演習：アイデアの絞り込み	商品価値を軸に、アイデアに収益性があるかを検討する方法を講義する（プロダクトコーンや「こ」価値） 個人演習：探したアイデアを絞り込む方法（KJ法等）を中心に講義し、自分のアイデアを絞り込む【作成したシートを中間評価】
5	【配信講義】デスクトップ調査 個人演習：アイデアのまとめ方	【配信講義】インターネットを使用して競合分析を行うデスクトップ調査を行う（次回までの宿題） 個人演習：これまでの演習で出されたアイデアを理論的にまとめる（次回までの宿題）
6	競合分析 個人演習：アイデアの計画化	ファイブフォース等の競合分析を軸に、企画した新商品・新サービスに競争優位性があるか評価する方法を講義する 個人演習：絞り込んだアイデアをSWOT分析、ドメインにより整理する（次回までの宿題）
7	3つの戦略 個人演習：アイデアの競合分析	企画した新商品・新サービスは、3つの戦略のうちどれが最適であるか評価する方法を講義する 個人演習：絞り込んだアイデアはどのようにすれば競争優位性が発揮できるか検討する【作成したシートを中間評価】
8	コンセプトとは 個人演習：アイデアのコンセプト化	企画した新商品・新サービスを、コンセプトとして目に見えるようにする方法を講義する 個人演習：絞り込んだアイデアをコンセプトにする（次回までの宿題）
9	マーケティング調査 個人調査：アイデアのマーク調査	企画した新商品・新サービスが適切であるかを調査する方法（仮説設定、調査の設計等）を講義する 個人演習：作成したコンセプトが適切であるかどうか評価する方法を検討する【作成したシートを中間評価】
10	【配信講義】マーケティング分析 個人演習：コンセプト作り込み	【配信講義】マーケティング調査した結果の基本的な解析方法を講義する（インターネット使用） 個人演習：これまでの評価を軸に作成したコンセプトを見直し、ネット調査をもとにブラッシュアップを図る。
11	コンセプトの事業化（新規事業） 個人演習：アイデアの事業化評価	ビジネスモデルキャンバスを用いて、立案したコンセプトの事業性を評価する 個人演習：ビジネスモデルキャンバスを用いて作成したコンセプトの事業性を評価する
12	商品開発演習Ⅰ 市場調査、企画案の検討	商品設計（企画）における市場調査の手法を学び、調査結果を活用した企画の立て方を学ぶ 個人演習：ある商品について、競合の市場調査を行い、調査結果を活用した企画立案を行う
13	商品開発演習Ⅱ 商品コンセプト、具体策の検討	商品企画案を具現化するための商品コンセプトの作成と表現方法を学び、具体的な内容に展開する 個人演習：ある商品について、商品コンセプトを作成し、具体策に展開して表現する演習を行う
14	まとめ 個人演習：コンセプトの表現方法	過去の授業を振り返り、補足説明をする。後期審査模擬演習を行う。 個人演習：コンセプトの表現方法を中心に講義し、作成したコンセプトのレポート作成方法を検討する
15	後期審査	①ケーススタディを用いた筆記試験 ②レポート作成
16		

☐ 到達目標

- ①ビジネスアイデア（新商品または新サービス企画）を創出できる。
②アイデアを具体化し、内容を目に見える形態で他人に説明できる。

☐ 成績評価の方法・基準

試験60% 課題30% 出席状況・授業態度10%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	企業研究Ⅳ			齊藤尚仁	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

民間企業の経営企画部門での勤務後、経営コンサルタントとしての法務アドバイス等のを行っている教員が職務経験を授業の中に入れることで、ビジネスの現場で活用する実践的なノウハウを享受する。

☐ 授業科目の概要

授業では、企業や組織、業界のビジネスの流れを理解し、企業の役割と取り組みを学ぶ。さらに、社会保障制度や公的・私的保険、医療・労働保険、介護保険、年金保険を中心に、働く上で必要な社会保険を理解する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	企業研究の復習	企業研究Ⅰ～Ⅲの復習を行い、業種や業界と職種の関係、労働基準法を講義し、これまでの企業研究の内容を振り返る
2	企業組織	分業と分業の階層化を説明し、企業の仕事の進め方が現れた組織図の種類を学ぶ
3	業界と企業との関係	業界と企業、企業内の関係という視点で日本経済の動きを理解する
4	企業グループ	財閥や銀行、ホールディングスをコアとした企業グループや飲食店チェーンの視点で日本経済の仕組みを理解する
5	社会保障制度概論	労働者の社会保障制度について
6	社会保障制度概論	公的保険と私的保険
7	社会保障制度概論	公的保険と私的保険
8	医療保険制度	医療保険制度の仕組み
9	医療保険制度	医療保険制度の仕組み
10	労働保険制度	労働保険制度の仕組み
11	介護保険制度	介護保険制度の仕組み
12	年金保険制度	年金保険制度の仕組み
13	年金保険制度	年金保険制度の仕組み
14	まとめ（演習）	過去の授業を振り返り、補足説明をする 後期考查模擬演習を行う
15	後期考查	
16		

☐ 到達目標

企業経営分野における実務に関する知識を習得している

☐ 成績評価の方法・基準

試験80% 出席状況・授業態度20%

2026年度	後期	経営学科学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ファイナンシャル概論Ⅱ		町田 萌		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本選択		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はFPサテライト株式会社に約8年間(前身の個人事務所を含む)のFP実務および育成マネジメントしている実績を踏まえ、FP実務者および育成者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

すべて対面による授業で行う。主体性を持って授業に取り組めるように、自身のライフプラン作成が最後の課題である。
また、人生を歩む過程内容で授業を行うことで、親近感を持って少し遠い未来まで考えてもらう。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	はじめに オリエンテーション	・授業概要・自己紹介、企業紹介・フリーディスカッション
2	【人生設計】自分のファイナンスを 作成 人生をバックカastingしよう！	・ファイナンス、ファイナサイン、ファイナメントを知ろう 50歳の自分、どうなってる？職業、貯金、資産、生活、家族など。そこから逆算すると・・・○歳で就職？○歳で車買う？○歳で結婚？○歳で出産？○歳で住宅購入？
3	【キャリア】就職、どうする？	・大企業で安定？中小企業でやりがい？フリーランスで技術を活かす？起業する？ ・雇用されるメリット・デメリット、独立するメリット・デメリット
4	【日常生活費】独り暮らし、生活費はどのくらいかかる？	・基本生活費とは（生活費、家賃、等々）
5	【資産運用】お給料が入ってきたらど と、貯金しておくの？資産 運用ってどうやるの？	・資産運用って何？資産運用の目的・株式、投資信託、FX、不動産・知っててやるのと、知らずにやるのは天と地の違い！
6	【税金・社会保険】給料、年収、手取り年収、なんで違うの？	・給料明細を見ると「支給額」「控除額」「支払額」って何？年収ってどれ？ ・税金、社会保険のみ
7	【結婚・出産】結婚したいけど、お金どれだけかかるの？ 子どもとの出会い、おめでたいけど	・結婚する前、結婚式、結婚後・・・お金がいっぱいかかりそう。・出産っておめでたいし、うれしいけど、結構お金がかかりますが、社会保障もあります(出産手当金)、育休(雇用保険)
8	【保険】将来に対する漠然とした不安	・もし自分が大きな病気やケガをしたらどうしよう・・・ ・公的保険(健康保険、遺族年金)、民間保険
9	【住宅・車】人生の大きな買い物	・そろそろ自動車(200～300万円)や住宅(3,000～6,000万円)を購入したいな ・ローンってどうやって組むの？住宅ローン減税ってどうやって手続きするの？・持ち家と賃貸の違い
10	【教育】人生3大出費と言われる「教育費」	・皆さんの教育費ってどのくらいかかってるの？ ・保育園・幼稚園→小、中、高校→専門学校 トータル○○万円！
11	【セカンドキャリア】転職してキャリアアップ、年収アップ！	・「社会保険、国民年金、企業年金、企業年金確定拠出年金って何？」 ・独立も！？確定申告書の書き方も記載
12	【相続】実家に財産？えっ、こんなにあるの？	・「遺言、相続の介護、どうする？」 ・「雇用保険(失業給付)、(教育訓練)」 ・「住宅ローン、健康保険、月々の費用」 ・実家にはそんなに現金がないから自分には関係ない？資産は現金だけではありません・事前に想定し、準備しておくことが大切
13	【マインドセット】お金ってなんですか？お金の本質	・お金は目的を達成するための手段である。 ・お金と豊かさの相関関係
14	【人生設計】もう一度ライフプランをバックカastingしよう	・ここまで学んできた上で、改めて自分のライフプランシートを作成
15	最終課題提出	ライフプランを完璧に仕上げる
16		

☐ 到達目標

マネーリテラシーの基礎知識を身に着けてうえで
自身のライフプランを作成できるようにする。

☐ 成績評価の方法・基準

試験0% 課題60% 出席状況・授業態度40%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	日本の企業経営Ⅱ		倉原照幸		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
	講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は経営者として長く活動しており、自身の経営者としての実績を踏まえ、中小企業経営の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

本授業は、「日本の企業経営」の理論と実践を体系的に学ぶことによって、実社会に出た時に役立つ「実学」を重視した授業を展開いたします。
「初歩から学ぶ日本の企業経営」をテーマに、前期は、講義とディスカッションをベースに「日本の企業経営」の基礎的な知識習得を行います。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	イントロダクション	授業のすすめ方、評価の仕方について説明し、授業終了時の到達目標などを提示する。 現行、起きている社会状況を企業経営の立場から考察する。
2	日本の企業経営の歴史①	概説：幕末から明治前期の経済。
3	日本の企業経営の歴史②	経営者の誕生：明治から昭和の経営者。
4	日本の企業経営の歴史③	戦後の日本経営のありかた。高度経済成長期から現代の経営手法。
5	企業経営とは何か①	初めて学ぶ日本の経営概論。
6	企業経営とは何か②	社会と経営：企業経営と社会の結びつきを知る。
7	日本の企業システム①	日本の企業システムの特徴。
8	日本の企業システム②	日本の企業システムと海外の比較。
9	ベンチャー企業の経営①	ベンチャー企業経営の特徴と課題。
10	ベンチャー企業の経営②	ベンチャー企業の展望。
11	企業経営（事例考察）①	EC事業会社をテーマにケーススタディ。2社程度予定。
12	企業経営（事例考察）②	注目するスタートアップ企業を考察する。2社程度
13	国際比較（米国編）	米国と日本の企業経営の特徴を比較検討。
14	国際比較（ヨーロッパ編）	特にドイツ、イギリス企業と日本企業の特徴を比較検討。
15	講義のまとめ	授業の重要ポイントに絞ったまとめ。
16		

☐ 到達目標

- 日本の企業経営のこれまでの歴史の考察を出来ること。
- 日本の企業システムと経営管理について理解出来ること。

☐ 成績評価の方法・基準

- 課題レポートの提出（70%）
- 期末テスト（30%）

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ITパスポートⅡ		日出間隆樹		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

某大学予備校事業部にて、プログラマ・SE(システムエンジニア)。専門学校+大学にて情報処理技術者試験(2種、シスアド、基本情報、ITパスポート)講座、プログラミング・日本語文書処理・表計算・データベース実習、SPI講座、毛筆・硬筆書写検定講座担当

□ 授業科目の概要

経済産業省 情報処理技術者試験(国家試験)ITパスポート試験における学習指導

□ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	企業活動と法務	経営組織論・業務分析・会計と財務、知的財産権・労働取引関連法規・標準化
2	ビジネスインダストリ	ビジネスシステム・エンジニアリングシステム・IOT組込みシステム
3	システム開発とソフトウェア開発	開発モデル・見積もりと設計・テスト・システム移行と保守
4	プロジェクトマネジメント	WBS、PERT、要員計画、リスク対策
5	サービスマネジメントと監査	ITサービス・システム監査の概要
6	ハードウェア1	5大装置(入力・出力・記憶・演算・制御)
7	ハードウェア2	情報の表現(ビット・バイト)、数値表現・文字表現・画像表現・音声表現)、入出力インターフェース
8	ソフトウェア1	OS・プログラム言語と処理環境・アルゴリズムとデータ構造
9	ソフトウェア2	ファイルシステム・マルチメディア
10	コンピュータシステム	コンピュータシステム・システムの信頼性と稼働率
11	データベース	リレーショナルデータベース・正規化・排他制御・バックアップと障害対策
12	ネットワーク1	LAN・WAN・インターネット、接続形態、プロトコル、OSI基本参照モデル、ルータ、TCP/IP
13	ネットワーク2	MACアドレスとIPアドレス・サブネットマスク・ポート番号、アプリケーション層のプロトコル群
14	ネットワーク3	無線LAN、通信サービス、情報セキュリティ対策、情報の暗号化・鍵方式、電子署名と認証局
15	期末試験	ペーパー試験による理解度の確認
16		

□ 到達目標

ITパスポート試験合格相当の理解

□ 成績評価の方法・基準

試験75% 課題00% 出席状況・授業態度25%

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ビジネス企画 I		市丸聡子		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本選択		講義・演習		1	2×15	週 1 コマ＝2時限×15週 週 2 コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、経営コンサルティング会社に10年勤務し、新規事業開発、企業向けマナー/営業研修、集客支援等の実績を踏まえ、論理的な企画書作成、およびプレゼンテーションスキルを講義する

☐ 授業科目の概要

ビジネス企画書の作成を通じ、購買心理への理解、データ分析力、事例（他社）情報収集、収益性、マーケティングへの理解を深める。最終的に、論理的な企画書にまとめ、プレゼンテーションすることで、アウトプット力を高める。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講師自己紹介、授業概要説明
2	購買心理	顧客はどのような心理で商品・サービスを購入するか→課題解決と新規性、独創性
3	データの読み取り	多数の飲食業界データを読み解きながら、「自分が飲食店を作るとしたら、どんな飲食店？」→ターゲット選定
4	企画テーマ検討	テーマ考察、情報収集
5	企画テーマ決定	テーマについて、講師へ説明。（妥当性を講師が判断）
6	準備・計画の作成	現状分析、課題把握、業界データ等、必要な基礎データの洗い出し、スケジュール作成
7	フィールドワーク、データ分析	主にパソコンを使用したデータ、事例、競合分析
8	フィールドワーク、データ分析	主にパソコンを使用したデータ、事例、競合分析
9	マーケティング講義	リアル・ネットでの販売促進や広告宣伝の手法、実際の金額など、事例講義
10	プレゼンテーション講義	企画書の構成、パワーポイントの効果的作成方法、「他者に聞かせる」プレゼンテーションとは
11	企画書作成	企画書作成作業、プレゼン練習
12	企画書作成	企画書作成作業、プレゼン練習
13	企画発表（中間）	企画書の提出と、プレゼンテーション
14	企画書修正	企画書修正
15	定期考査	企画書の提出と、プレゼンテーション
16		

☐ 到達目標

論理的な企画書を作成する。
効果的なプレゼンテーションを実施する。

☐ 成績評価の方法・基準

課題60％ 出席状況・授業態度40％

2026年度	後期	経営学科	2年	宅建・FP専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		起業論Ⅳ		齊藤尚仁		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

民間企業の経営企画部門での勤務後、経営コンサルタントとしての法務アドバイス等の行っている教員が職務経験を授業の中に交えることで、ビジネスの現場で活用する実践的なノウハウを享受する。

☐ 授業科目の概要

この授業では、これまでに習得した「起業」に関わる戦略論、マーケティング論、「不」の解消によるニーズ分析および経営計画の立案等の知識を振り返り整理する。また、個人事業主と法人化の比較やフランチャイズシステムなど、今後の起業に必要な情報を習得する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	起業知識の整理	外部環境分析
2	起業知識の整理	PEST分析による外部環境の読み方
3	起業知識の整理	強みの再確認と企業での活用
4	起業知識の整理	ドメイン（ターゲットの設定、ニーズの明確化）
5	起業知識の整理	ドメイン（差別的優位性）
6	起業知識の整理	マーケティング戦略
7	起業知識の整理	財務戦略
8	起業方法	個人事業主とフリーランス
9	起業方法	法人化のメリット・デメリット
10	起業方法	税金と社会保険の知識整理
11	フランチャイズ	フランチャイズへの取り組み
12	フランチャイズ	フランチャイズのメリット・デメリット
13	違法ビジネスの回避	ポンジスキームとマルチ商法、ネズミ講
14	まとめ（演習）	過去の授業を振り返り、補足説明をする 後期考查模擬演習を行う
15	後期考查	
16		

☐ 到達目標

起業までに必要な知識を習得している

☐ 成績評価の方法・基準

試験80% 出席状況・授業態度20%

